

平成26年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成26年4月1日～平成27年3月31日

平成27年8月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

○教育委員会評価にかかる難易度基準の設定

難易度	難易度設定の基準
A	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
B	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
C	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

○教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

○評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。

難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。

右の例示は難易度B、達成度3。

(達成度)

4			
3			
2			
1			

C B A (難易度)

平成26年度 加西市教育委員会点検評価総括表

大項目	重点目標	実践目標	取組内容	評価		担当課	
				難易度	達成度		
新しい時代を切り拓くこころ豊かな人づくり	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます	遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育を進めます	体験的な活動の充実ならびに食育を通じて家庭、地域との連携推進	A	3	こども未来課
			幼児園で4～5歳児全てに2年間の幼稚園教育を実施	B	3		
			小学校教育への滑らかな接続に情動知能を育てるSTARTプログラムの実践	B	3		
			子育て相談などの機会設定と療育・健康部門と連携した子育て支援の推進	A	3		
		2	発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます	幼小中学校及び関係機関との連携の推進	A	3	総合教育センター
		3	知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります	基礎的基本的な知識・技能の確実な定着と言語活動の充実	A	3	学校教育課
				児童生徒の実態に応じたきめ細かい指導の推進	A	3	
	4	自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます	道徳教育の充実	B	3	学校教育課	
			いじめ防止の取組みの充実	A	3	総合教育センター	
	5	運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます	体力・運動能力の向上、健康教育、食育の推進・充実	B	3	学校教育課	
			安全安心な学校給食の実施	B	4	教育総務課	
	6	家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます	特色ある学校づくりの推進	B	4	総合教育センター	
	7	教職員としての資質能力の向上に努めます	教職員の研修講座の充実	A	3	総合教育センター	
	2	1	市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進めます	学習機会の提供と生きがいづくりの推進	B	3	文化スポーツ課
学習拠点としての図書館の機能整備と有効活用				B	3	図書館	
2		市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進めます	体力づくり・運動能力向上に向けた指導体制の充実	B	3	文化スポーツ課	
			スポーツ団体の育成	B	3		
			体育施設環境整備の促進	B	3		
			地域スポーツ活動の推進	B	3		
3		豊かな心を育み、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります	文化芸術の催し開催などによる魅力ある文化発信	B	3	文化スポーツ課	
	文化連盟所属団体をはじめとする市民・団体の自主的活動への支援		A	2			
	指定文化財および埋蔵文化財の保護活用と情報発信		B	3			
	地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動支援		B	3			

大項目	重点目標	実践目標	取組内容	評価		担当課	
				難易度	達成度		
	3	1	子育て環境の充実を図ります	幼保一体型施設の整備と学童保育の拡充	A	3	こども未来課
				特別保育ならびに多子世帯への保育料軽減	B	3	
				親子交流や地域交流を通じた子育て支援の実施	B	3	
		2	心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます	健全育成関係機関・団体との連携	A	3	総合教育センター
3	安全・安心な教育環境を整えます	教育施設耐震化と環境整備	A	3	教育総務課		

< 施策評価の分布 >

実践目標を構成する各取組内容の評価分布数は、下記の表のとおりです。

難易度	A	B	C	合計
施策数	11	18	0	29
割合(%)	38%	62%	0%	

達成度	4	3	2	1	合計
施策数	2	26	1	0	29
割合(%)	7%	90%	3%	0%	

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	1	遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育を進めます		
<p>●取組1 「体験的な活動の充実ならびに食育を通じて家庭、地域との連携推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人や物との関わりを通して、多様な体験ができるよう環境構成を工夫し、コミュニケーション力や思考・表現力の育成を推進 ・地域、家庭などと連携した健全な食育活動の実践 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく園活動を実施し、太鼓演奏等、伝統行事への参加、施設交流等、様々な体験活動の取組を通じて地域と幼児の関わりを深めた。 ・園庭を活用した野菜づくりなどを通して収穫の喜びを体感し、さらに収穫物を調理することで食べることの楽しさを意識させるとともに、保護者に対し食育の大切さを伝えた。 ・市指定研究発表会を九会幼稚園で実施し、幼保職員80人が参加し資質向上に努めた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門毎に各園で実施する体験活動を、他園でもできるように相互の資材借用や技術指導など、柔軟な協力体制を講じていく必要がある。 ・私立園の独自性を尊重しつつ、普及啓発や研修について継続的呼びかけを行う必要がある。 		担当課	こども未来課	
		評価		
<p>●取組2 「幼稚園で4～5歳児全てに2年間の幼稚園教育を実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度を培い、滑らかな小学校教育への接続を推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児教育プログラムを検討し、3～4歳児への成長の流れに沿った教育プログラムの見直しを図った。 ・本市の0歳～就学前児童の保育・教育プログラムの原案を策定した。 ・子ども子育て新制度に対応すべく、3歳からの幼児教育の確立を図った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳～5歳児までの成長や地域の特性に応じた保育・幼児教育プログラムにより、公私立園の共通理解を深める必要がある。 ・学校教育法にもとづく3歳児からの幼児教育を全ての園児に提供し、保護者にも目的が理解されるよう周知を図る必要がある。 		担当課	こども未来課	
		評価		

<p>●取組3 「小学校教育への滑らかな接続に情動知能を育てるSTARTプログラムの実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期において対人関係の基礎を習得するにあたり自己抑制と集中力を高めることで小1プロブレムの解消 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公私立幼保職員ならびに保護者を対象に、STARTプログラムの目的ならびに実践講座を開設し、周知を図った。 ・園長ならびに主任による実践的研究会を年3回開催し、各園での実践による普及と職員間の共通認識を深めた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学後の授業態度など情報交換を進めることで、学びの連続性に配慮した幼児教育の向上を図る必要がある。 	<p>担当課</p> <p>こども未来課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組4 「子育て相談などの機会設定と療育・健康部門と連携した子育て支援の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就園前の親子を対象に、育児相談ならびに体験保育の場として園庭解放 ・発達障害児支援について療育・健康部門との連携を図り、加配職員を適正に配置 ・個々の特性に応じた支援・指導計画の立案及び発達に応じた支援ファイルの作成 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象に延べ45回の園庭開放や幼稚園ウィークなどの公開保育を計30回開催した。また、親子参加事業等を63回開催し、子育て不安解消に向けた取組を行った。 ・発達相談等のあった3歳児以上の園児41名を対象に、個々の実態調査を行ったうえ支援担当職員12名の配置を決定した。また、私立園には加配職員配置助成措置を講じた。 ・発達支援児個々の支援ファイルを作成し、研修会ならびに特別支援ネットワーク会議で保幼小職員相互で支援ファイルをもとに情報伝達を行うことで支援の継承を図った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就園前親子など子ども子育て支援業務については、窓口や業務の集約により保護者の利便性を高める必要がある。 ・療育部門等の関係機関との連携を深め、園児個々の発達状況と経過を客観性をもって早期に把握し、情報共有化と保育者の資質向上に努める必要がある。 ・特別支援児支援担当職員を臨時職員で対応しているものの、幼保職員は恒常的に不足状態であり、職員確保が喫緊の課題である。 	<p>担当課</p> <p>こども未来課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	2	発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます												
<p>●取組1 「幼小中学校及び関係機関との連携の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中特別支援ネットワーク会議における発達支援電子ファイルの活用 ・発達支援電子ファイルの県立高等学校への引継ぎ ・個々の成長を促す発達支援プログラム(小集団トレーニング、保護者学習会、教職員研修会)の実施 ・相談関係機関の連絡協議会や医療機関のケース会議を通した発達相談体制の整備 ・小中連携教育推進委員会を開催(年間3回) ・小中連携推進プラン策定委員会を開催(年間6回) ・小中連携推進プランの策定 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援電子ファイルを県立高等学校に引き継ぐことで、継続的な支援を図ることができた。 ・相談関係機関や専門医師との共通理解を深め、多面的な成長について、保護者や関係者に情報を提供し、相互交流を図ることができた。 ・発達支援プログラムの実施において児童の集団適応力を高めるトレーニングを実施した。また、教職員指導者研修会を実施して指導者の指導力向上を図り、客観的視点から実態に即した活動を行うことができた。 ・各学校や各校区における小中連携教育の取組が増えた。 ・小中連携推進プランを策定し、今後の取組の方向性を確立することができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校、関係機関との連携方法や発達支援電子ファイルの有効活用に関する具体的方法を検討し、総合的な支援に結びつけることが必要である。 ・小中連携推進プランに基づき、9年間のカリキュラムを作成するなど具体的な取組を実施する。 		<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 1086 1495 1256"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												

実践目標	3	知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります															
<p>●取組1 「基礎的基本的な知識・技能の確実な定着と言語活動の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かさい学力向上プロジェクト事業」として、全国学力・学習状況調査の分析結果や考察を踏まえ、学力向上を推進するための効果的かつ実践的な指導方法についての研修会を3回実施 ・市教委指定学習研究発表校(小2校・中1校)及び中間発表校(小3校)の研究に関する指導助言を実施 ・学習や読書習慣の確立を図るため、週4回の「朝の学習タイム」を実施 ・「家庭学習ハンドブック」を活用した家庭学習の充実 ・図書館と連携した学校図書の実用と環境整備 ・ALTの導入による外国語(英語)授業におけるコミュニケーション能力の育成 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の分析結果や考察をまとめ、「かさい教育ねっと(市教委機関紙)」で公表し、改善に向けたポイントを明確にできた。 ・「学力向上授業実践講座」を実施し、実践的な指導方法について研修を深めることができた。 ・「朝の学習タイム」の定着が図れ、学習や読書習慣の定着につながっている。 ・研究発表校での授業参観や研究協議を踏まえ、適切な指導助言を行うことができた。 ・ALTと英語教師などとのT、T指導により、児童生徒が英語に慣れ親しむとともにコミュニケーション能力が向上した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器や通信ネットワークを活用する学習活動を通じて、思考力、判断力、表現力を培う授業づくりに努める必要がある。 ・「家庭学習ハンドブック」を活用し、家庭学習のさらなる充実を図る取組が必要である。 ・小中連携による発達段階に応じた系統性のある学習指導を推進する必要がある。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1318 1003 1495 1218"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「児童生徒の実態に応じたきめ細かい指導の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市単事業で、スクールアシスタント、ヤングアドバイザーを小・中学校に配置し、児童生徒の実態に応じた指導の充実 ・児童生徒支援教員や学校支援教員、理科観察実験アシスタントを配置し、個に応じたきめ細かい指導の実施 ・新学習指導システム教員の活用による少人数指導・同室複数指導の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任とスクールアシスタント等の連携が図られ、効果的な指導ができた。 ・スクールアシスタント等の資質向上が図られ、児童生徒が安定した状況で学習できるようになっている。 ・新学習指導システム教員の活用が効果的にできた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の「放課後補充学習推進事業」を活用するなど、さらにきめ細かい指導について検討することが必要である。 ・本年度作成した「小中連携推進プラン」に基づき、発達段階に応じた系統性のある指導を推進することが重要である。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1318 1800 1495 2013"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	4	自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます															
<p>●取組1 「道徳教育の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を要にした教育活動全体に位置づけた道徳教育の充実 ・基本的な生活習慣を身につけることを目的とした、生活習慣「あ・い・う・え・お」の周知を図るとともに、規範意識を身につけ、自尊感情や他者への思いやりを育成 ・家庭や地域、関係団体と連携した体験活動をおし、豊かな心を育成 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉中学校で道徳教育を研究テーマとした市指定研究発表会を開催し、道徳教育の充実に資することができた。 ・家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着とともに、規範意識の醸成が図れた。 ・各校での自主教材の開発や研修会等の推進が図れた。また、参観日での積極的な授業公開が見られた。 ・小中連携事業や地域と連携した事業等、多様な体験活動等を通じて、他者への思いやりや公共の精神などを培うことができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校におけるアンケート調査の結果から、自尊感情が低い状況が見られる。 ・小中連携による「道徳教育カリキュラム」を作成し、発達段階に応じた系統性のある指導を推進することが必要である。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1319 936 1505 1106"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「いじめ防止の取組みの充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施 ・いじめ対応加西市ネットワーク会議の開催(年3回) ・市いじめ防止基本方針策定委員会の開催(年2回) ・市いじめ防止等に関する条例検討委員会の開催(年2回) ・市いじめ防止基本方針、市子どものいじめ防止等に関する条例の策定 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止の取組を実施することを通じて児童生徒の「豊かな心」の育成を図ることができた。 ・いじめ対応加西市ネットワーク会議等を実施することを通じて、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を図ることができた。 ・市いじめ防止基本方針や市子どものいじめ防止等に関する条例を策定することで、いじめ防止の取組の体制を確立することができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市いじめ防止基本方針や市子どものいじめ防止等に関する条例にのっとり、さらに具体的な取組を推進する必要がある。 		<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1319 1733 1505 1946"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	5	運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます												
<p>●取組1 「体力・運動能力の向上、健康教育、食育の推進・充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動あり方検討委員会」を設置し、加西市における部活動の課題克服をめざした体制を検討 ・各校における体力測定および「運動プログラム2009」の実施 ・関係機関との連携事業や外部講師招聘等による健康教育の推進 ・望ましい食習慣の形成と定着を図るための食育指導の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の課題克服をめざした体制が整いつつある。 ・市立加西病院や加東健康福祉事務所、加西警察署等から講師を招聘し、健康教育や食育指導を行ったことで、児童生徒の健康や安全に関する知識、理解が高まった。 ・各学校とも、5月までに体力測定を実施し、その結果を踏まえて計画的・継続的な体力づくりができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動ガイドライン」を策定し、部活動のさらなる充実・活性化を図ることが大切である。 ・児童生徒の体力レベルの二極化傾向を改善する必要がある。 ・特に、小学校における体力・運動能力に課題がある。 ・食育指導のさらなる充実を図るため、栄養教諭と連携した指導を推進する必要がある。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 875 1495 1050"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組2 「安全安心な学校給食の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中特別支援学校の完全給食 ・地産地消の推進 ・アレルギー対応食の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食センターが完成し、平成26年1月より調理を開始したことで、市内全学校への完全給食が実施できている。 ・米については、市内産のヒノヒカリを100%使用している。また、野菜については、播磨農業高校と愛菜館より市内産を購入している。 ・平成26年9月より、アレルギー対応食調理室を完備した北部学校給食センターの受配校に限り、卵除去食を供給している。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、学校給食センター2施設と単独調理場3施設で、学校給食を調理しているが、児童生徒の減少と、南部学校給食センターが建設より47年経過しており、老朽化が進んでいるためその改築と調理施設の統廃合が課題である。南部学校給食センターの改築により、単独調理場3施設を統廃合し、南部・北部学校給食センターの2施設で調理をする。また、南部学校給食センターにアレルギー対応食調理室を整備することで、全学校にアレルギー対応給食の配食が可能となる。 ・地産地消について、市内産の野菜は種類と生産量に限りがあるため、給食メニューを工夫して地産地消率を上げることが課題である。 		<p>担当課</p> <p>教育総務課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 1675 1495 1848"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												

実践目標	6	家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます																					
<p>●取組1 「特色ある学校づくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワッシュョイスクール」・「学校づくり応援事業」等による特色ある学校づくりの実施 ・地域の自然や文化、人を活用した特色ある取組の実施 ・家庭や地域と連携した活動の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワッシュョイスクールをはじめ、地域住民の協力による様々な活動が実現し、教育活動の充実を図ることができた。 ・家庭や地域と連携した取組が増え、地域に信頼される学校、開かれた学校づくりにつなげることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワッシュョイスクール」・「学校づくり応援事業」は、定着しているが、さらに工夫して充実した取組を実施することが必要である。 ・各学校の取組を様々な機会でご報告することで、地域のさらなる協力が得られるようにする。 		<table border="1"> <tr> <td colspan="3" data-bbox="1324 237 1490 282">担当課</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="1324 282 1490 712">総合教育センター</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="1324 712 1490 757">評価</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1324 757 1380 801"></td> <td data-bbox="1380 757 1436 801" style="background-color: black;"></td> <td data-bbox="1436 757 1490 801"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1324 801 1380 846"></td> <td data-bbox="1380 801 1436 846"></td> <td data-bbox="1436 801 1490 846"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1324 846 1380 891"></td> <td data-bbox="1380 846 1436 891"></td> <td data-bbox="1436 846 1490 891"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1324 891 1380 927"></td> <td data-bbox="1380 891 1436 927"></td> <td data-bbox="1436 891 1490 927"></td> </tr> </table>	担当課			総合教育センター			評価														
担当課																							
総合教育センター																							
評価																							

実践目標	7	教職員としての資質能力の向上に努めます															
<p>●取組1 「教職員の研修講座の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員対象アンケート調査の結果をもとに21コース、43講座の研修講座の開催 ・実践に即した事例研修やワークショップ、現地研修など多彩な講座の開催 ・教科指導の力を向上させる学力向上授業講座の開催 ・講座終了後、参加者全員を対象とする講座評価アンケートの実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数延べ795名(昨年度比50%増)という多くの受講者があった。 ・講座評価アンケート調査による評価が、5段階平均で4.66ポイント(昨年度比0.21増)となり、受講者の満足度がさらに高くなった。 ・希望すれば参加出来る講座を増やしたこと、魅力ある講座を開催したことでよい結果に繋げることができた。 ・教師力向上講座や学力向上授業講座を実施することで、教職員の実践的指導力を向上させることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望すれば参加することができる講座や魅力ある研修講座を増やすことが必要である。 ・講師との事前打ち合わせを綿密に行い、受講者のニーズに合った充実した講座を実施する。 		<p>担当課</p> <p>総合教育センター</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 927 1506 1097"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

※ 評価基準の表示については、横軸:難易度、縦軸:達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においては2年間の幼児教育を導入し、就学前の早い時期から集団生活を経験し、同年齢や異年齢の友達と遊ぶことによって、知的好奇心や社会性を伸ばし、基本的生活習慣をしっかり身につける教育を進めた。 ・保育と教育の一体性を確保しながら、保育者の資質向上をめざすとともに保幼小間の情報交換と互恵性のある幼小交流を進めることで、子どもたちが小学校での学習や生活を円滑に行えるよう就学前教育と小学校教育の滑らかな接続を図った。 ・幼保職員は恒常的に不足状態であり、職員確保が喫緊の課題である。 ・発達支援電子ファイルを県立高等学校へ引き継ぐことで、対象となる生徒の継続的な支援を図ることができた。 ・全国学力・学習状況調査の分析結果や考察をまとめ、改善に向けたポイントを明確にし、「かさい教育ねっと」で公表できた。また、「学力向上授業実践講座」を実施し、実践的な指導方法について研修を深めることができた。 ・市単事業で、スクールアシスタント、ヤングアドバイザーを小・中学校に配置し、児童・生徒の実態に応じたきめ細かい指導ができたが、その人数においては十分とは言えない。 ・加西学校づくり応援事業により、小・中・特別支援学校各校がテーマを決めて、特色ある教育を推進しながら、生きる力を育む取組を実施することができた。 ・小中連携事業や地域と連携した事業等、多様な体験活動等を通じて、他者への思いやりや公共の精神などを培うことができた。 ・「部活動あり方検討委員会」を設置し、加西市における部活動の課題克服をめざした体制を検討したことにより、「学校の実情を踏まえた弾力的な体制」など、その改善が図れつつある。 ・小中連携推進プランを策定することで、市の推進体制を確立するとともに、小中連携教育推進委員会を開催することで各学校における小中連携教育の理解を深め、各校区毎に特色ある取組を増やすことができた。 ・市のいじめ防止基本方針や市子どものいじめ防止等に関する条例を策定し、市のいじめ防止の取組の体制を確立することができた。 ・総合教育センターにおいて、アンケート調査をもとに教職員の希望を尊重し、教科に関する講座やワークショップ形式の講座など実践に即した様々な内容の研修講座を開催し、昨年度より5割増加という多くの受講者数があった。講座評価アンケート結果も0.21ポイント増加し、5段階評価で4.66ポイントという高い満足度を得ることができた。 ・学校給食については、給食センター2施設と単独調理場3施設で、全小・中・特別支援学校に完全給食を配食している。アレルギー対応策として、卵除去食の配食を平成26年9月より実施することで、質の高い学校給食が実現できた。また、地産地消については、新たに播磨農業高等学校より農産物を購入することで推進が図れた。南部学校給食センターは、建設より47年が経過し施設の老朽化が進んでいる。そのため、早急に施設整備計画を策定し改築事業を進めることが課題である。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>重点目標1に係る取組は、実践目標の多くが教職員の取組として書かれていることから、成果の記述において、子どもの成長を読み取ることができないものが多い。</p> <p>取組の成果が、学校・園が行ったことや教員の取り組んだこと、作ったもの、参加した人数等で示してあり市民には見えないことから、「到達すべき数値」「達成すべき状態」等を示すことで、学校や教育委員会の取組が見えるものとなると考えられる。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	2	「市民が主役」の生涯学習社会づくりを進めます
------	---	------------------------

実践目標	1	市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいを進めます									
<p>●取組1 「学習機会の提供と生きがいの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の機能の充実と条件整備 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館では地域の文化や社会課題に応じた主催講座を51講座開催し、延べ434回、延べ8,473名の利用があった。 ・オークタウン加西のキャンプ場や駐車場を市民団体と協力して整備し、施設の充実を図った。 ・視覚障がい者のための「北播磨青い鳥学級」、知的障がい者のための運動教室を開催した。 ・公民館で学ぶ登録グループの学習成果を地域へ還元する「公民館まちづくり出前講座」が3年目を迎え、今年度は59回にわたり、延べ261人の登録グループ生が市民1,244人に出前講座を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館で自主的に学ぶ登録グループの高齢化と固定化が進み、活性化を図ることが必要である。また公民館まちづくり出前講座は年々参加者数は増えているものの、講座を行うグループに偏りが見られる。 ・社会課題の解決を図るものや地域のニーズに対応した学習機会を提供し、地域づくりや地域振興を担う人材を育成し、まちづくりに寄与する役割を果たしていく必要がある。 ・社会教育施設の老朽化が進み、維持改修費用が多大なものになっている。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p>									
		<p>評価</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>									
<p>●取組2 「学習拠点としての図書館の機能整備と有効活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人貸出上限数引き上げによる貸出促進 ・雑誌スポンサー導入による雑誌種類の拡大 ・読書活動を推進するための各種イベントの開催 ・学校図書館との連携による出前講座、学校訪問 ・市史を読む会(月例)開催による加西市史の理解 ・宇仁郷歴史資料館建設に向けた助言、サポート <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26来館者数 225,405人(対前年度比+7,457) ・ // 貸出冊数 394,367冊(対前年度比+33,476冊) ・ // 雑誌スポンサー数(新規) 23社、40誌(県下最大) 雑誌種類180種類(対前年度比+20) ・ // 読み聞かせ・図書館まつり等に加えて新規に永田萌原画展など各種イベントを開催。 ・ // 学校図書館等連携を目指し、団体貸出の増、ブックトーク、出前講座の充実が図れた。 ・ // 市史を読む会開催数 10回、延べ203人参集(対前年度比+13) ・宇仁郷歴史資料館建設にむけ、地元との調整、助言を行い、平成27年度に完成見込みとなった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出上限数引き上げを行った結果、貸出冊数は前年から大幅に増加したが、読書離れの傾向が顕著となる中学生の層において、不読率(一カ月間に全く本を読まない子どもの割合)が17.6%と全国数値(15.0%)を上回っており、この世代向けの読書活動の推進が課題となっている。 ・学校図書館法改正により、各学校に学校司書を置くように努めることとなったが、予算的、人材育成の面からも図書館との連携を含めた態勢整備が急務となっている。 		<p>担当課</p> <p>図書館</p>									
		<p>評価</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>									

実践目標	2	市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進めます															
<p>●取組1 「体力づくり・運動能力向上に向けた指導体制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進につながる指導者の育成 ・市民を対象としたスポーツの普及 ・各種スポーツ教室の開催 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会(「ショートテニス講習会」「スーパードライブ講習会」「普通救命講習会」)を実施。 ・スポーツ指導者の資質向上及び人材育成が図れた。 ・市民を対象とした「ショートテニス教室」を勤労者体育センターで7回実施。 <p>誰もができるニュースポーツを通して、生涯スポーツに親しみをもち日常生活の習慣とできるように図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町親善ソフトボール大会及び市民体育大会参加者数 3,204名 <p>市民で構成された競技団体が大会等を実施することにより、スポーツに親しむ環境づくりができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカップブラジル2014 パブリックビューイング 参加者 300名 ・「キッズ」「大人」のフットサル教室 延べ参加者 「キッズ」388名 「大人」273名 ・女子プロ野球選手による野球教室 参加者 65名 ・「キッズ」「大人」のソフトボール教室 参加者「キッズ」31名「大人」24名 ・ヴィッセル神戸サッカークリニック 参加者 59名 <p>一流選手を招聘した各種教室を実施することにより、競技レベルや指導者のスキルレベルが上がり、スポーツに対する関心が強まった。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実践者の増加に伴い指導者の育成が急務となり、各種取組を行っているが指導者の養成については十分でない状況にある。今後も市民がスポーツに親しむ環境づくりをめざし、指導者の育成を図ることが必要である。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1316 1142 1501 1317"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「スポーツ団体の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会加盟団体及びスポーツ少年団が主催する大会の支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技団体登録者数 200団体 3,737名 <p>体育協会については、平成27年度に法人格取得に向けた方向性が決まり、組織の強化と各加盟団体の自主事業の取組強化に向けて動いていく。</p> <p>スポーツ少年団については、平成27年度に体育協会へ加盟するために、各団体の活動推進を図っていく。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会及びスポーツ少年団は、単一種目団体の集合体であることから、協会全体の情報や団体活動をまとめる必要があり、役員で情報を共有し団体運営を活性化していく必要がある。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1316 1848 1501 2016"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

<p>●取組3 「体育施設環境整備の促進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校体育施設の開放 市内小学校11校、中学校4校、特別支援学校1校の運動場、体育館、武道館を市民に開放 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校体育施設開放に係る利用者数 255,840名 ・加西勤労者体育センター等公共スポーツ施設の利用者数 89,051名 ・適正な施設整備及び備品購入実施により、適切な施設の管理運営ができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の補修・改修を計画的に進める必要がある。 	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組4 「地域スポーツ活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブ21、スポーツ少年団の育成と自主活動の促進及びスポーツ人口の拡大推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツクラブ21 会員数1,234人 スポーツクラブ21北播磨地区交流フェスティバル大会に参加することにより、複数のニュースポーツを体験することができ、幅広い年代層や北播磨地区の会員とも交流できた。 スポーツクラブ21加西市連絡協議会交流大会において、市内各スポーツクラブがグラウンドゴルフを通じて交流ができた。 ・スポーツ少年団団員数 586名 現状の補助金の中で、各団体がスポーツ推進と自主運営が行えるよう支援することにより、最大の効果を発揮できた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツクラブ21の活動状況に応じた統合を促進し、円滑な運営や活動を支える必要がある。 	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組5 「地域スポーツの振興と活性化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツの振興と活性化を図るため、加西市スポーツ推進審議会を開催する。 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進審議会を2回開催。加西市のスポーツ推進計画に対する取組状況を確認し、効果的な推進を図るための方策を審議した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ団体や学校、地域と行政が連携し、加西市スポーツ推進計画を推進していく必要がある。 	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	3	豊かな心を育み、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります															
<p>●取組1 「文化芸術の催し開催などによる魅力ある文化発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第48回文化祭の開催 文芸祭・美術公募展・市民音楽祭・囲碁大会・いけばな展・茶席 家族ふれあい芸能祭・おやこ劇場 ・手作り絵本講座・絵本フォーラムの開催 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第48回文化祭 参加者人数:2,290名、入場者数:2,871名 ・手作り絵本講座 参加人数:33組34名 絵本フォーラム 入場者数:150名 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭については開催内容の適宜見直しが必要である。 ・各事業とも参加者の満足度はおおむね高いが、集客に難渋する。各事業の魅力を知ってもらい集客するためのPR方法に工夫が必要である。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 728 1498 902"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「文化連盟所属団体をはじめとする市民・団体の自主的活動への支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟および同連盟加盟団体の自主的活動への支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟加盟団体と協力して、第48回加西市文化祭を開催。地域の事業を運営し、参加してもらうことにより、さらなる自主性と、団体および団体構成員の自己実現の確立を目指した。 ・文化連盟(登録者数:約700名)を中心に、東播磨文化団体連合会主催事業(6事業)への参加に加え、文化連盟加盟団体自主事業を年間約40回開催するにあたり支援を行い、自主活動を充実させることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体によっては、会員減少や高齢化が進むなど活性化が必要なところがある。 ・団体構成員の更なる自主・自立に向けた指導を継続する必要がある。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1321 1406 1498 1581"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

<p>●取組3「指定文化財および埋蔵文化財の保護活用と情報発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財整備活用 ・未指定文化財の再評価 ・埋蔵文化財包蔵地の周知と開発計画との調整 ・地域、学校教育への文化財出前講座等の開催 ・玉丘史跡公園の効率的な管理と運営 ・埋蔵文化財整理室等の活用 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財修理1件(一乗寺防災施設修理)への補助金助成を実施し整備を図った。 ・埋蔵文化財と開発計画の調整事務を271件、分布調査2件、立会調査を6件、確認調査を6件、全面調査1件実施。 ・文化財出前講座・見学会等の開催(小学校3件141名、団体・一般7件182名が参加)。 ・史跡玉丘古墳群整備基本計画策定に着手、史跡玉丘古墳現地説明会(一般337名)。 ・埋蔵文化財整理室特別展の開催(年間来室者数約764名(前年比105%))。 ・史跡公園(指定管理)の来園者数34,637名(前年比114%)。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物の老朽化や石造物の風化等の問題、未指定文化財を含め防火防犯の問題があり、文化財の保存と維持管理の充実を図ることが課題である。 ・看板設置や情報発信、観光ルート設定等、文化財の観光資源化への取組の拡充が必要である。 	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組4「地域歴史遺産の掘り起こしと活用及び文化財保存団体等の活動支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーター(ボランティア)活動の支援 ・「文化遺産を活かした地域活性化事業」の推進 ・市内各文化財保存会等の活動支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーター活動7名、月1回の定例会実施。 ・「文化遺産を活かした地域活性化事業」実施、文化遺産情報発信事業2件(祭屋台ガイドブック刊行、歴史街道ボランティアガイド養成講座)、文化遺産普及啓発事業2件(鶉野飛行場、五百羅漢)、文化遺産継承事業4件(泉・市村子供太鼓教室、本町区・栗田区化粧屋台修理)、文化遺産調査研究事業1件(野上町)など多種多様で有効な文化遺産の活用ができた。 ・文化財保存会等活動助成33団体への補助金助成実施等を通じて継続的な歴史文化遺産の保存を充実させることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財サポーター(ボランティア)活動の活性化と継続が課題である。 ・歴史遺産や伝統文化の担い手である地域の文化財保存会等への活動支援の充実を図ることが課題である。 	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>評価</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												

※ 評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・公民館では、登録グループによる出前講座は軌道に乗り、地域住民と連携した地域課題解決型の講座を開始した。オークタウン加西では県補助金の活用や市民団体との連携による施設整備やイベント等を実施するなど、公民館を中心とした生涯学習活動を一層推進することができた。</p> <p>・蔵書数が初めて20万点を超え、加西市教育基本計画策定当初のH23と比較しても約2万点の増となり、学習拠点としての機能を充実させることができた。さらに新規雑誌スポンサーの参加により雑誌の種類を増やすことができた。図書館主催イベントや学校連携事業も近隣市と比較しても遜色ない内容となった。郷土資料を活用した市史の周知、住民主体の歴史資料館へのサポートも態勢が整いつつある。</p> <p>・スポーツ推進計画に則りスポーツ推進審議会での推進等を把握した。各種スポーツ教室を実施できた。各種スポーツ団体の自主自立的な活動を強化することができた。</p> <p>・例年の文化事業については、市内各種団体との協力連携により実施した。</p> <p>・文化財保護活動、歴史文化遺産の活用とも多種多様な事業を着実に実施した。特に玉丘古墳群整備基本計画の策定は、国等の指導を受け、期間を次年度まで延長して実施する。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>実践目標が市民の姿で語られており、取組についても一貫性がある。成果は、参加した人数や登録者数を示されていることから、目標にも数値目標等を掲げることが検討されたい。</p> <p>重点目標2の項目は、すべての取組が難易度設定Bとなっているが、今後Aレベルの新しい企画も検討されることに期待する。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援します
------	---	------------------

実践目標	1	子育て環境の充実を図ります												
<p>●取組1 「幼保一体型施設の整備と学童保育の拡充」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかな成長を支える子育て環境整備の促進、幼稚園・保育所一体型施設の整備計画の推進 ・放課後や土曜日の児童健全育成の場となる学童保育事業の拡充 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度から引き続き、加西中学校区、泉中学校区において就学前施設整備基本計画地域協議会を開催し、(仮称)加西こども園、泉幼稚園の整備方針を定めた。私立園においては認定善防こども園、認定愛の光こども園、認定多聞こども園の施設整備と認可支援を行い、幼保一体施設の整備に努めた。 ・小学6年生までの学童保育を全小学校区に拡充するため、北条学童専用棟を設置し、学童指導員の研修等、運営体制の充実を図った。また児童の増加が見込まれる北条東学童保育では専用棟を整備するため、園舎の設計を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保施設の再編協議は地域事情、児童数の推移等、慎重に協議を進める必要がある。 ・公設による施設整備には建設に係る財源確保が必要である。 		担当課												
		子ども未来課												
		評価												
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組2 「特別保育ならびに多子世帯への保育料軽減」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育、病児・病後児保育など特別保育の充実 ・多子世帯への保育料負担軽減及び一部助成の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気の時も安心して預けられるようにアステア加西に病児・病後児保育園を開設した。25年度の利用実績20人に対し、26年度は307人に利用が増えた。 ・新制度に伴う保育料の見直しを行うとともに、多子世帯に対する保育料軽減は、第2子45名、第3子87名の申請を受理し、負担軽減を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の保育料の設定については近隣市の動向を注視する必要がある。 		担当課												
		子ども未来課												
		評価												
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td><td style="width: 33%;"></td></tr> <tr><td></td><td style="background-color: black;"></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												

●取組3 「親子交流や地域交流を通じた子育て支援の実施」

- ・公民館の子育て学習センター、つどいの広場を活用した親子交流と子育て支援活動の実施
- ・ねひめキッズ及び子育て支援センターに子育て拠点を設け、相談ならびに就園前の親子交流の場に提供

●成果

- ・子育て支援センター2施設に「ほくぶキッズ」、「ぜんぼうキッズ」のつどいの広場を設置し、就園前の親子を対象した交流の場の提供に努めた。年間延べ利用者は20,942名であった。
- ・就学前児童とその保護者を対象にしたメール配信サービス(かさい子育てNAVI)を開始し、子育て広場に関する情報発信の強化に努めた。

●課題

- ・サービスや支援を必要とする保護者に的確な情報を伝え、新たな利用者を増やす工夫が必要。

担当課

こども未来課

評価

実践目標	3	安全・安心な教育環境を整えます												
<p>●取組1 「教育施設耐震化と環境整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化工事として、富田小学校南校舎地震改築工事の着工(26～27年度工事)、九会小学校南校舎・富合小学校北校舎・善防中学校体育館耐震補強工事の完成。西在田小学校地震改築工事・九会小学校北校舎・下里小学校北校舎・賀茂小学校校舎耐震補強工事設計と天井等非構造部材落下防止工事設計の完了 環境整備工事として、宇仁小学校渡り廊下設置工事の着工(26～27年度工事)、加西中学校屋外環境整備工事、北条中学校南門スロープ設置工事、泉小学校プール浄化装置改修工事、富合小学校プール塗装改修工事の完成 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化工事により3棟の耐震補強工事が完成し、耐震化率が前年度から5.8%上昇し、88.5%になった。 環境整備工事により、北条中学校は自転車通学用の安全な通路が確保できた。加西中学校は、暗渠排水工事により雨天後のグラウンド状態を改善できた。泉・富合小学校は、プール水質の改善が図られた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震化率は88.5%になったが、兵庫県の平均耐震化率を下回っている。文部科学省の耐震化計画の最終年度である平成27年度に全ての耐震化工事が完成するように工事を進める。 耐震化の不要な建物については、老朽化が進んでおり今後計画的な改修工事が必要となる。 		<p>担当課</p> <p>教育総務課</p> <p>評価</p> <table border="1" data-bbox="1318 936 1501 1108"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												

※ 評価基準の表示については、横軸：難易度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、達成度3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<p>・加西中学校区、泉中学校区において就学前施設整備基本計画地域協議会を開催し、(仮称)加西こども園、泉幼稚園の整備方針を定めた。私立園においては認定善防こども園、認定愛の光こども園、認定多聞こども園の整備及び認可支援を行い、幼保一体施設の整備に努めた。</p> <p>・小学6年生までの学童保育を全小学校区に拡充するため、北条学童専用棟を設置し、学童指導員の研修等、運営体制の充実を図った。</p> <p>・公設による幼保施設の整備には建設に係る財源確保が必要である。</p> <p>・連合PTA、子ども会育成連絡協議会、青少年健全育成連絡協議会、青少年補導委員連絡協議会等の関係団体相互の連携を強化し、青少年健全育成のための取組を推進することができた。</p> <p>・小中学生対象の「インターネット等の利用についてのアンケート調査」の実施、保護者向け啓発リーフレットの作成・配布によるネットトラブル防止運動を実施することにより、インターネット利用の危険性についての認識を高めるとともにトラブル防止を図ることができた。</p> <p>・耐震化事業は、計画どおり進み耐震化率は88.5%となった。耐震化工事の最終年度である平成27年度に実施する耐震化工事の設計も完了した。</p> <p>・耐震化工事を最優先で進めて来たため、耐震化が不要な建物については、大規模改修工事を行っていない。そのほとんどの建物が建設より約30年経過しており、老朽化が進んでいる。今後は、改修工事の全体計画を立て予算確保のうえ、計画的に施工することが課題である。</p> <p>・環境整備事業は、耐震化工事に合わせて施工するものと、個別に施工するものに分けて効率的に実施できた。</p>	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>実践目標1「子育て環境の充実を図ります」において、認定こども園の整備計画等が示されるが、施設の充実だけでなく、認定こども園で目指す教育や子どもの姿を併記することも検討されたい。</p> <p>実践目標2「心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます」においては、学校教育との関連性を明確に示すことも必要であり、重点目標1において取扱うことも検討されたい。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

総合コメント

教育施策の目標を掲げるときは、できる限り「めざす子どもの姿」や「ありたい地域の姿」で示されることが望ましい。その上で、目標実現のための取り組みがあり、さらに成果は子どもや地域の成長で示すことが、市民からの信頼に答える教育につながると考えられる。

また、目標の具現に向けて学校や行政の動きが市民から見える取り組みも必要であることから、実践目標を定めるとき、到達すべき数値や状態を明確に示すことも検討されたい。

今後は、学校教育と社会教育の融合が図られた、市民総掛かりでの教育が振興されることに期待する。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学 教授	日渡 円
兵庫教育大学 教授	小西 哲也